

# 森林試験場

平池 章

徐々に、または急激に移り変っているいろいろな型の森林は、林業経営に携さわる人達にとっては天然の試験場としての機能を十分に果しているのだから、立派な森林試験場であるといふことができよう。

森林生態系の解明にあたり、森林試から課題を与えられ、この解析に専念する人達を林業試験場の研究員とするならば、森林試を経営活動の場として経営技術を投入している人達は、技術の開発や向上に勉める研究員である。

経営に携さわる人達は、つねに森林試から学び経営方針を樹立して経営成果の向上に勉めているが、各部門においてもその部門ごとに森林試の指導を受けながら業務成績の向上に勉めている。

しかし、生態系のすべてを観察なり調査なりによって学びとることができるとは考えられないうし、移り変りを推測することも困難である。また、経営マンは掌握すべき範囲が広く多忙でもある。

林業試は、経営マンが森林試とつき合う場合に、より幅広く、より深くつき合いができるように、資料を提供し、経営計画や業務執行が森林試からかけ離れないように協力するのが仕事である。

林業試の研究員の内容にもよるが、可能な限り全場挙げて林業プロパーの課題の解明に勉めていきたい。経営側も森林試とのつき合いのなかからどしどし意見を出して、協同研究により研究成果の促進に協力願いたい。

(経営保護部長)